

授業コード	科目名	リプロダクティブ・ヘルス支援			担当 教員	阿部正子、宮里 実、 深津真弓、家吉望み、 廣瀬紀子
助 108					E-mail	m.abe@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	新研 423	月曜日 6 限・木曜日 6 限 (teams 可)	
1. 授業の概要						
<p>女性のライフステージにおける健康課題のなかでも、保健医療従事者による積極的な支援により課題解決が促進される事柄、および今日的課題について理解し、助産機能の柱をなすウイメンズヘルス技術を実践できる基礎的能力を養う。また、受胎調節実施指導員として必要なセクシュアリティ支援の知識・方法を学習する。さらに、現代社会の多様化する性と生殖の健康・権利を支援する専門職者として、倫理観・助産観を深め、対象者への支援のありかたおよび助産師としての役割について考える。</p>						
1. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性の健康とリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて説明できる。</li> <li>2. ライフサイクルからみた女性の健康課題について説明できる。</li> <li>3. 不妊に悩む女性への援助について説明できる。</li> <li>4. 性感染症の母子感染の現状を理解し、助産師の果たす役割について自分の考えを述べる事が出来る。</li> <li>5. 性暴力被害者支援の実際を理解し、助産師の果たす役割について自分の考えを述べる事が出来る。</li> <li>6. 性の多様性に配慮するための知識と実践方法について理解することができる。</li> <li>7. 受胎調節に関わる各種避妊法および受胎調節に関する法規を説明できる。</li> <li>8. 女性のライフサイクルにおいて罹患しやすい疾患と治療法について理解することができる。</li> <li>9. 女性を取り巻く社会的背景、社会問題および女性のライフステージにおける性と生殖に関する健康課題について理解し、助産師の果たす役割について自分の考えを述べる事が出来る。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1 回 コースガイダンス・ライフサイクルからみた女性の健康課題 (阿部) : 助産学講座 4 第 1 章  第 2・3 回 性暴力被害者支援の実際 (家吉)  第 4・5 回 性感染症・HIV の母子感染の現状 (廣瀬) : 助産学講座 2 第 7 章, プリンシプル p. 690-722  第 6 回 婦人科感染症、各種受胎調節法 (深津) : 助産学講座 2 第 7 章  家族計画の実際 (第 2 版増補版)  第 7 回 女性生殖器と乳房の疾患 (深津) : 助産学講座 2 第 9 章  第 8・9 回 発達段階に応じた受胎調節/家族計画指導 (阿部) : 助産学講座 5 第 6 章  家族計画の実際 (第 2 版増補版)  第 10・11 回 女性骨盤底疾患 (宮里) : プリンシプル (婦人科) p. 633-642  第 12 回 LGBT と医療現場での実践と取り組み  (講話講師: 定政輝 LGBT 支援団体 Rainbow Create 代表)  第 13・14 回 不妊の悩みをもつ女性・家族への支援 (阿部) : 助産学講座 2 第 4 章  第 15 回 女性のライフサイクル各期における健康課題と支援, まとめ (阿部)  第 16 回 試験</p>						

4. テキスト・参考文献
<p>助産学講座 1～5 医学書院, 2021  プリンシプル産婦人科学 婦人科編  北村 邦夫「受胎調節指導用テキスト (リズムダイヤル付き)」日本家族計画協会, 2016  木村好秀, 斎藤益子「家族計画指導の実際 第2版増補版」医学書院, 2017  加納尚美, 李節子, 家吉望み「フォレンジック看護-性暴力被害者支援の基本から実践まで」  医歯薬出版, 2016  石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社, 2019  *参考図書・資料等：必要に応じて適宜紹介する。</p>
5. 準備学習
事前学習を行い参加すること。
6. 成績評価の方法
課題レポート(50%) 筆記試験 (50%) 合計 100 点
7. 履修の条件
特になし
8. その他
<p>この科目は、受胎調節実施指導員認定講習の一部である。  オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明する。</p>

授業コード	科目名	妊娠期の助産診断・技術学			担当教員	長嶺絵里子、大浦早智 小西清美
助 109					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	新研 417	月 5 限、金 5 限	
1. 授業の概要						
<p>助産実践に必要な基礎的知識の修得および技術の理解によって基本的な助産診断を学習する。妊婦とその家族の生活を助産師として正しく診断し支援できるようになるために、妊婦の妊娠経過や健康生活、および、心理・社会的生活の診断における基礎的な助産診断力、助産実践力、臨床的態度を修得する。また、妊娠期の助産過程の展開では、助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切に査定し、また対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解し、対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。</p>						
2. 到達目標						
<p>1. 妊娠期助産診断に必要な基礎的知識を理解し説明できる。  2. 妊娠期の健康生活を維持し、セルフケア能力を高めるケアを理解し説明できる。  3. 妊婦及び家族に対して診断に基づいた支援について学修する。  4. 助産技術の提供に必要な基本的姿勢を身につける。  5. 妊娠期の助産過程の展開の方法を理解し、適切にアセスメントできる。  6. 正常な妊娠期経過が、異常に移行するリスクについてアセスメントできる。</p>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1 回：助産診断・技術学の概要、妊娠期の生理、妊娠期の身体的診断 &lt;授業形式：講義&gt;  第 2 回：妊娠期の心理・社会的診断・支援 &lt;授業形式：講義&gt;  第 3 回：妊娠期のフィジカルアセスメント &lt;授業形式：講義&gt;  ①妊娠の診断 ②妊婦の健康診査、③妊娠期の経過診断  ④胎児発育・健康状態の診断：胎児の評価・胎児環境の評価、胎児心拍モニター、助産外来時の超音波エコー  第 4 回：妊婦への支援：妊娠期の栄養： &lt;授業形式：講義&gt;  第 5 回：妊婦への支援：妊婦の日常生活適応のための支援（日常生活適応、マイナトラブルへのケア）  親準備・出産準備への保健指導  第 6 回：妊娠中から分娩にむけた身体づくり動作・運動 &lt;授業形態：演習&gt; 【外部講師】  第 7 回：妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の管理  第 8 回：助産過程：助産過程とは、妊娠初期のアセスメントと助産診断、保健指導、  指導案作成（事例展開）  第 9 回：助産過程：妊娠中期のアセスメントと助産診断、保健指導、指導案作成（事例展開）  第 10～11 回：助産過程：妊娠後期のアセスメントと助産診断、保健指導、指導案作成（事例展開）  第 12～13 回：妊婦健診、健診に必要な技術、身体計測、子宮底・腹囲計測、骨盤計測  妊娠中の姿勢と骨盤ケア &lt;演習&gt;  第 14～15 回：妊娠期からの食育（妊娠期の食育指導）&lt;授業形式：講義・調理演習&gt; 【外部講師】</p>						

第 16 回：期末試験	
4. テキスト・参考文献	
<p>我部山キヨ子他編、助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [ I ] 妊娠期、医学書院          日本助産診断・実践研究会編、マタニティ診断ガイドブック第 6 版、医学書院          我部山キヨ子・大石時子編、助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院          平澤美恵子監修、写真でわかる助産技術アドバンス [Web 動画付]、インターメディカ          進純朗、助産外来の健診技術 根拠にもとづく診察とセルフケア指導、医学書院          医学情報科学研究所編・病気が見える VOL.10 第 3 版、メディックメディア          藤森敬也、胎児心拍数モニタリング講座、MC メディカ出版          エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌          金井雄二、これから始める！周産期超音波の見かた、MC メディカ出版          今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践課程 第 3 版 南山堂</p>	
5. 準備学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の知識・技術は、復習してから授業に臨んで下さい。</li> <li>・授業内容の理解を深めるために、事前に上記の授業計画に示された内容を確認し、用語の理解の主張の把握、根拠の整理を行って、授業に参加下さい。</li> <li>・授業後は学習成果を振り返り、理解出来なかった点を明確にしておくことが重要です。</li> </ul>	
6. 成績評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動評価カード（毎回の講義終了後に記入・提出）</li> <li>・受講態度（授業中の質疑応答や授業への積極的参加態度）</li> <li>・事前学習課題（技術演習、保健指導パンフレット・指導案作成、助産過程課題(個人課題)）</li> <li>・試験</li> </ul>	<p>10 点</p> <p>10 点</p> <p>20 点</p> <p>60 点</p> <p>合計 100 点満点</p>
7. 履修の条件	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から自分の食生活や食行動を意識し、自身の健康づくりに取り組んでいきましょう。</li> <li>・産科に関する情報に関心を持ち、新聞やニュース等から積極的に情報を得るようにしましょう。</li> </ul>	
8. その他	
<p>*シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。</p> <p>*妊娠期保健指導としてパンフレット作成を行うため、講義時間外での活動も必要となります。</p>	

授業コード	科目名	分娩期の助産診断・技術学			担当教員	長嶺絵里子、大浦早智 小西清美
助 110					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	新研 417	月・金：5 限	
1. 授業の概要						
<p>分娩期に焦点を当て、母児の健康状態の査定および個々バースプランを尊重した助産実践のために必要な助産診断・技術を修得する。具体的には、①周産期医学での学習内容を基盤に、正常な産婦の経過を適切に判断できる助産診断能力、②女性の産む力をひきだし、バースプランを尊重した安全・安楽・満足な出産のための助産技術、③正常な分娩経過を逸脱した場合の対応、すなわち、急遂分娩、異常分娩の介補や産科的出血および裂傷縫合術を含む緊急時の処置について学修する。また、分娩期の助産過程の展開では、助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切に査定し、また対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解し、対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>産婦および家族、胎児にとって安心・安全・快適なお産ができるよう支援するための基本的知識を理解し、説明できる。</li> <li>産婦の入院から分娩第4期までの助産師の役割を理解し、診断技術と分娩経過に必要なアセスメント視点を理解し、説明できる。</li> <li>産婦の主体性を引き出すケアのためのリラクゼーションや産通緩和の方法を理解し体験できる。</li> <li>分娩経過中の異常や緊急時の予測と対応、産科手術、産科的医療処置について理解し説明できる。</li> <li>分娩期の助産過程（情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価）の展開ができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
第1回 ガイダンス 学修の進め方、分娩期の対象理解と助産師の役割 (長嶺)						
第2-3回 分娩の生理、分娩経過、分娩の心理社会的変化 (大浦)						
①分娩3要素②分娩の機序 ③分娩が母体・胎児に及ぼす影響						
④分娩期の心理社会的変化：産婦の心理と家族関係の特徴 産婦の健康生活						
第4-5回 分娩期の助産診断 (1) (大浦)						
分娩期の助産診断の特徴と診断類型：分娩期の助産診断の視点、特徴						
分娩期のフィジカルアセスメント：産婦の健康診査に必要な技術 分娩開始の診断						
第6回 分娩期の助産診断 (2) (長嶺)						
分娩期の経過診断 胎児の位置の診断、母体・胎児の健康状態のアセスメント胎児付属物のアセスメント、分娩進行状態の診断、フリードマン曲線と分娩予測 パルトグラムの記載、						
第7回 分娩期の助産診断 (3) (大浦)						
① 分娩介助の目的 ②正常分娩介助法の原理と実際						
② 分娩介助技術と EBM ④付属物の検査と計測						
第8-9回 アクティブバース・フリースタイル分娩 (外部講師)						
第10-11回 産婦の支援：産婦の支援の基本：産痛のメカニズムと産通緩和、呼吸法(DVD参照) (長嶺)						
第12回 出生直後の新生児のアセスメントとケア：アプガースコアの判定・成熟度の判定 (長嶺)						
第13~14回 異常妊産婦の管理、支援(吸引分娩、誘発分娩、帝王切開、無痛分娩、胎盤早期剥離、弛緩出血) (大浦、長嶺)						
第15-21回 分娩期の助産過程の展開、保健指導(パンフレット、指導案作成) (大浦、長嶺)						
第22回 助産過程の発表						

## 第23回 まとめ

### 4. テキスト・参考文献

- ・我部山キヨ子編, 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ, 医学書院
- ・青木康子編, 実践マタニティー診断第5版, 医学書院
- ・THE 分娩ビジュアルで学ぶ 生理学・助産診断・分娩介助のすべて, メディカ出版
- ・医療情報科学研究所編, 病気がみえる産科第3版, MEDIC MEDIA
- ・日本産科婦人科学会編, 産婦人科診療ガイドライン産科編, 杏林舎
- ・エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌
- ・厚生労働科学研究 妊娠出産のためのガイドライン, 科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン, 金原出版
- ・武谷雄二, プリンシプル産科婦人科学2 第3版, メディカルビュー
- ・北川真理子編, 今日の助産改訂第3版, 南江堂
- ・「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」我部山キヨ子他編, 医学書院
- ・岩田塔子, 体位別フリースタイル分娩介助法, メディカ出版
- ・竹田省, 高橋真理編, CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法, メディカルビュー
- ・進純朗, 分娩介助学 第2版, 医学書院

### 5. 準備学習

授業計画に示された内容を確認し、用語の理解、根拠の整理を行って、授業に参加すること。授業後は学習成果を振り返り、理解出来なかった点を明確にしておくことが重要である。

### 6. 成績評価の方法

・活動点	10点
・助産過程の展開	30点
・試験	60点
合計	100点満点

### 7. 履修の条件

特になし

日頃から産科に関する情報に関心を持ち、新聞やニュース等から積極的に情報を得るようにしましょう。

### 8. その他

分娩期助産演習に継続させて、学びを深めること。

\*シラバスは講義の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

授業コード	科目名	産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学			担当 教員	小西清美、大浦早智、 長嶺絵里子、大城洋子、 峯田昌子、野村れいか、 新垣梨奈
助 111					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	新研 419	月 5 限、水 1 限	
1. 授業の概要						
<p>産褥期、新生児期における助産の判断・実践に必要な基本的知識・技術を修得する。新生児の適応生理について学習し、異常の早期発見と異常への対処の必要性と方法について理解する。母乳育児については、どのような支援が必要かについて、エビデンスに基づいた根拠と母乳育児を成功させるための方法・技術を習得し、実践に繋げることができるための技術と知識を修得する。それらを基に母乳哺育を成功させるための支援の仕方を考える。褥婦およびその家族が新たな家族形成をしていく発達課題を達成できるように母子関係・父子関係等の家族関係や親性・育児性等に対する支援ができるために必要な基礎的知識と技術を修得する。また、産褥期の助産過程の展開では、助産診断の原理・原則に基づき、個々の妊産褥婦・新生児のリスクおよび健康状態を適切に査定し、また対象の心理的・社会的側面を理解して、ケアに反映させていく過程を理解し、対象に寄り添い、受け手の満足につながるニーズに合ったケアを提供する能力を養う。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥期・新生児期の正常な生理的变化を理解し、経過診断に必要なアセスメント視点を学ぶ。</li> <li>2. 出生後早期の胎外生活適応のプロセスを理解し、正常からの逸脱を防ぐための予防的ケアについて理解する。</li> <li>3. 産褥期にある女性の身体的、精神・心理的、社会的問題について理解する。</li> <li>4. 退院後の生活・育児に向けた支援を考えることができる。</li> <li>5. 母子の愛着形成、母乳育児支援など、産褥・新生児期に必要な援助技術を習得する。</li> <li>6. 母子とその家族をめぐる家族関係の発達理論について理解する。</li> <li>7. NICUにおける児と家族へのケア、Family Centered Care (FCC) の概念について理解する。</li> <li>8. 母子とその家族の関係性の構築および親役割獲得における助産師の役割について考察する。</li> <li>9. 産褥期・新生児期の助産過程が展開できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
第 1 回	ガイダンス、産褥期・新生児期の助産診断の特徴と診断類型、事前課題の説明					
第 2 回	産褥期のフィジカルアセスメントとその支援					
第 3 回	産褥期の心理社会的アセスメントとその支援、 子をなくす親へのケア（ペリネイタルロス、ターミナルケア）					
第 4 回	家族関係（父子・きょうだい）の構築と支援、 家庭・社会生活復帰への支援・家族計画の支援					
第 5 回	ハイリスク・異常褥婦のアセスメント支援					
第 6 回	新生児のフィジカルアセスメントとその支援（大浦）					
第 7-8 回	育児行動取得への支援、親役割行動獲得のための支援（峯田）					
第 9-10 回	母乳育児に関する基本的知識〔各論〕：乳房の解剖生理、					

	母乳の分泌機序、新生児の哺乳行動 (大城)
第 11-13 回	支援の時期と内容、乳房トラブルと対処法、人工乳の医学的適応 (大城)
第 14-15 回	産褥期・新生児期の助産診断と展開 (講義・演習)
第 16 回	産褥期の退院指導 (案) 作成 (講義・演習)
第 17-18 回	産褥期・新生児の助産診断・技術 (演習)
	【後期授業】
第 19-20 回	心理療法士立場からの乳児、幼児の母子関係、発達障がい児への支援 (野村)
第 21-23 回	Family Centered Care (FCC) : FCC 概念、NICU (新垣) NICU のケアに関する演習 : 保育器の取り扱い方、保育器内での清潔ケア・授乳 ディベロップメンタルケア(ポジショニング・ネスティング 他)
第 24 回	期末試験
4. テキスト・参考文献	
<p>我部山キヨ子・毛利多恵子編. 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期, 医学書院, 東京.</p> <p>横尾京子編 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期, 医学書院, 東京.</p> <p>河井昌彦 新生児医学 金芳堂 (2014).</p> <p>細野茂春監修改訂第 2 版 日本救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく新生児蘇生法テキスト, メジカルビュー社, 東京.</p> <p>病気がみえる Vol10 産科第 2 版, メディックメディア.</p> <p>日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編「産婦人科診療ガイドライン産科編 2017」(日本産科婦人科学会).</p> <p>日本助産師会 乳腺炎: 母乳育児支援業務基準, 日本助産師会出版, 東京.</p> <p>国際連合児童基金: 世界保健機関 UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド: 「母乳育児成功のための 10 カ条」の実践. ベーシック・コース, 医学書院.</p> <p>この他の参考図書は、随時紹介する。</p>	
5. 準備学習	
<p>ガイダンス時に資料を配布するので、確認しておくこと。</p> <p>授業の計画と内容に沿って、予習しておくこと。</p>	
6. 成績評価の方法	
筆記試験 70 点 課題 20 点、技術演習貢献度 10 点 合計 100 点	
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
<p>新生児蘇生法 新生児蘇生法「専門」コース (A コース) (公認講習会による認定取得)</p> <p>なお、本科目で展開する内容は、受胎調節実地指導員の資格認定に必要なものの一を含みます。</p>	



授業コード	科目名	周産期ハイリスクケア論			担当教員	小西清美、長嶺絵里子、大浦早智、宮貴子、真喜屋智子、新垣梨奈
助 112						
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	新研 419	月 5 限、水 1 限	
1. 授業の概要						
<p>周産期にかかわる現状と諸問題を踏まえ、周産期におけるハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児に対する知識と技術を学習し、適切な助産ケアができる能力を養う。助産師として異常の早期発見と異常への対処の必要性和方法を正しく理解し、チーム医療における助産師の役割を認識できる教育内容とする。新生児の異常を早期発見し対処できるように、新生児蘇生法を実践できるように実習も兼ねて行う。この科目では、新生児の救急蘇生法について学修し、NCPR : A コースのライセンスを取得する。</p>						
2. 到達目標						
<p>1. ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児に対するアセスメントができる。  2. ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児に対する適切な助産ケアを理解する。  3. 産科における救急時対応、NICUにおける児と家族へのケアの実際を学び、助産師の役割を理解する。  4. 新生児の異常の早期発見と異常発生時に対処できる蘇生方法を修得できる。</p>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1 回 授業概要 学修の進め方 周産期にかかわる現状と諸問題 (小西)  第 2-3 回 ハイリスク妊産褥婦のアセスメントとケア (管理) (長嶺)  第 4-5 回 周産期メンタルヘルスへの対応 (宮)  第 6-7 回 産科救急における助産ケア、母体急変時の初期対応 (外部講師)  第 8 回 ハイリスク妊産褥婦における助産診断・ケアの実践 (統合) (長嶺)  第 9 回 新生児蘇生法 (NCPR) に必要な基礎知識 (真喜屋、新垣)  第 10-14 回 新生児蘇生法 (NCPR A コース) 講習会 (真喜屋、新垣)  第 15 回 まとめ・評価 (小西)</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>我部山キヨ子編, 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ, 医学書院  青木康子編, 実践マタニティー診断第 3 版, 医学書院  日本産科婦人科学会編, 産婦人科診療ガイドライン産科編, 杏林舎  エビデンスに基づくガイドライン～妊娠期・分娩期～助産学会誌  武谷雄二, プリンシプル産科婦人科学 2 第 3 版, メディカルビュー  北川眞理子編, 今日の助産改訂第 3 版, 南江堂  細野茂春, 『日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト第 3 版』、メジカルビュー社、  我部山キヨ子他編・助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第 5 版 (医学書院)  横尾京子編・助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 第 5 版、医学書院  小林康江編、助産師基礎教育テキスト 第 7 巻 2020 年度版 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会</p>						
5. 準備学習						
<p>授業内容の理解を深めるために、事前課題内容を確認し、用語を理解し、技術の根拠を整理して授業に参加すること。授業後は学習成果を振り返り、理解出来なかった点を明確にしておくことが重要である。</p>						
6. 成績評価の方法						

<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動点</li> <li>・事前学習課題（別途掲示）</li> <li>・試験</li> </ul>	<p>20 点</p> <p>30 点</p> <p>50 点</p>
合計	100 点満点
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
*シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。	

授業コード	科目名	健康教育技法			担当教員	大浦早智、長嶺絵里子、 小西清美、大谷タカ子
助 113					E-mail	s.oura@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	看研 18	月：5 限、金：5 限	
1. 授業の概要						
<p>この科目では、女性とその家族が、その人らしくより良く健康に生活していくための健康教育について学習する。相談・教育・援助活動の基本を理解し、実際を通じた小集団指導の技法を修得する。</p> <p>カウンセリング技法を含めた相談・教育・援助活動の基本的知識およびコミュニケーションについての理解を深める。これらの健康教育の理論を活用して、分娩期・育児期・思春期の女性及び家族を対象とした健康教育計画を立案し、健康教育を展開する。また、小集団指導の実践として、母親学級、出張思春期教育に関する健康教育の企画・運営を行う。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談・教育・援助活動の基本について理解する。</li> <li>2. 健康教育の企画・運営を通じ、小集団指導の実際を学び、健康教育に必要な知識・技術の理解を深める。</li> <li>3. 助産師に必要なコミュニケーションスキルが活用できる。</li> <li>4. 対象の特徴を把握し、地域における人々の生活をイメージしながら、健康教室を企画、運営計画ができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
【前期】						
第 1 回 : 健康教育定義、相談・教育・援助活動の基本、(個別指導・集団指導の特徴、ねらい) 分娩期・育児期・思春期の健康課題と集団教育の目的 (大浦)						
第 2 回 : 健康教育の方法 指導案の作成過程(三観：対象観、教育観、指導観) 健康教育の構成意思決定支援 (大浦)						
第 3-6 回 : 個別・小集団の健康教育の実践 指導案作成・媒体作り(パンフレット作成) (大浦)						
第 7 回 : 健康教育発表 1 (学内) (大浦) *分娩期：出産前教育としての母親学級または両親学級を企画・運営する。						
【後期】(開始時期 10 月頃)						
第 8-9 回 : 集団指導健康教育の実践 (大谷) コミュニケーション・カウンセリング技法、ピアカウンセリング、アサーティブネス演習						
第 10 回 : 健康教育実践にむけた調整 (長嶺・大浦)						
第 11-14 回 : 指導案作成・媒体作り (長嶺・大浦)						
第 15 回 : 健康教育発表 2 (学外) (長嶺・大浦) *思春期：北部の小中学校と連携し、出張思春期教育を企画・運営する。 まとめ、リフレクション						

4. テキスト・参考文献
助産学講座5 助産診断・技術学 I, 医学書院, 堀内成子 他 マタニティサイクルの実践保健指導・産褥期, 丸善プラネット, 鈴木由美
5. 準備学習
講義（健康教育コース）に関連する内容を予め参考図書を読み予習する。
6. 成績評価の方法
課題（健康教育）への取り組み・実施評価 60点 指導案 40点 合計 100点
7. 履修の条件
特になし
8. その他
前期： <u>分娩前教育</u> の保健指導実施にそなえた指導案・使用媒体の作成、発表準備が必要となる。 後期： <u>小集団指導</u> の実際にそなえて思春期健康教育の実施にそなえた指導案、発表原稿、使用媒体の作成や、練習が必要となる。

授業コード	科目名	分娩期助産演習			担当教員	大浦早智、長嶺絵里子、 小西清美
助 114					E-mail	s.oura@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	看研 18	月曜：5 限、金曜：5 限	
1. 授業の概要						
<p>周産期の助産診断とケアに必要な助産技術を EMB、NBM の視点から演習を通して修得する。出産は母児双方に関わる概念であることを理解し、出生を介助する援助技術を学ぶ。分娩介助の意義・原理について学び、分娩介助技術の基本を修得する。分娩経過中の異常や緊急時の助産師の役割について理解を深め、ハイリスク妊娠分娩産褥で学んだ知識を観察の視点とし、看護者がとるべき行動について学修する。また、産婦の健康をホリスティックに捉え、助産ケアに必要な知識・技術の理解を深める。新生児に対しては出生時のアルゴリズムに即した援助方法、母子早期接触の支援の実際を学ぶ。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩介助に必要な助産技術の提供のための基本的知識・技術を理解する。</li> <li>2. 分娩介助の原理、助産技術の提供に必要な基本的知識を踏まえ、清潔かつ安全・安楽に分娩介助を実施できる。</li> <li>3. 分娩介助実習時に求められる学修者としての姿勢を自分の言葉で説明できる。</li> <li>4. 分娩期における診断およびケア技術を実施・評価できる。</li> <li>5. グループで協力して課題に取り組み、知識、技術を習得する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1-3 回 授業概要 学修の進め方 「<u>分娩介助手順書</u>」配布 デモスト 分娩介助技術のデモンストレーションを見学</p> <p>①分娩介助の意義 ②正常分娩介助法の原理 ③分娩体位 ④分娩時の準備：器具・機材の配置、手指消毒 ⑤外陰部洗浄、清潔野作成、ガウンテクニック</p> <p>*以下、3 人のグループになりグループ間で演習を行っていく。</p> <p>第 4-6 回 分娩介助法（1） / 分娩介助練習 1 回目 ファントムを用いて正常分娩介助に基づく介助技術の習得 分娩準備から分娩終了までの分娩介助時の技術</p> <p>①呼吸法、努責 ②肛門保護、会陰保護 ③児頭娩出、体幹娩出、出生時刻の確認、胎盤娩出 ④分娩後の観察：軟産道精査、出血確認、裂傷縫合 ※分娩進行に応じた技術：人工破膜、導尿</p> <p>第 7 回 分娩介助演習 中間評価 技術チェック表に基づき評価 *リフレクション実施し、各自の課題を明確にする。</p>						

<p>第 8-10 回 分娩介助法（2） / 分娩介助練習 2 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 分娩第 4 期の観察・移動、早期母子接触</li> <li>* 間接介助の役割と動き</li> <li>* 児受けの役割と動き</li> <li>* 出生直後の新生児のケア <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第一啼泣の助成</li> <li>② 児のバイタルサイン測定と観察、アプガースコア、臍処置</li> <li>③ 成熟度の判断、神経学的所見、標識装着、計測</li> </ul> </li> <li>* 胎盤計測・評価、出血量の測定、後片づけ（物品、分娩室）</li> </ul> <p>第 11 回 分娩介助法（3） / 分娩介助練習 3 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* グループ内での協同学習（通し）</li> <li>* 直接介助、間接介助を分担して担う</li> </ul> <p>第 12-14 回 分娩期の助産技術（状況設定） / 分娩介助練習 4 回目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 産痛緩和の方法・分娩促進のためのケア <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 発作・間欠時間の設定と、産婦の分娩進行に応じた配慮、声かけ</li> </ul> </li> <li>* 分娩進行が急速な産婦の診断技術、ケア技術、分娩介助術 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 正常な経過・児心音低下・臍帯巻絡時を設定</li> <li>－ 分娩促進、誘発分娩、吸引分娩時の対応</li> </ul> </li> </ul> <p>第 15-16 回 分娩介助技術テスト</p>
<p>4. テキスト・参考文献</p> <p>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ，医学書院  実践マタニティ診断第 5 版，医学書院  THE 分娩，メディカ出版  病気がみえる産科第 4 版，MEDIC MEDIA  プリンシプル産科婦人科学 2 第 3 版，メディカルビュー  CG 動画でわかる分娩のしくみと介助法，メディカルビュー  DVD で学ぶ仰臥位分娩介助技術 熟練の技を求めて，医歯薬出版株式会社  分娩介助学 第 2 版，医学書院  写真でわかる助産技術、インターメディカ</p>
<p>5. 準備学習</p> <p>助産師としての成長の土台となる基礎的な助産技術を身につけるために、分娩演習に関して目標を設定し、能動的な学修態度が必要となります。十分に予習・復習して臨んでください。</p>
<p>6. 成績評価の方法</p> <p>技術試験：80 点      グループ活動の内容：20 点      合計：100 点</p>
<p>7. 履修の条件</p> <p>・特になし</p>
<p>8. その他</p> <p>特に、助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに継続する科目である。主体的に臨むこと。  * シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。  * コロナ感染対策を各自が意識し、演習開始前後の手洗い・手指消毒・マスク着用をすること。  ソーシャルディスタンスを取り、換気を実施する。「体調観察記録簿」の内容をもとに体調確認を行い、演習に参加すること。</p>

授業コード	科目名	母子の癒し援助論			担当教員	長嶺絵里子、大浦早智、 小西清美、諸喜田睦子
助 115					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	新研 417	月 5 限、金 5 限	
1. 授業の概要						
<p>リラクゼーションの理論と実際を学び、助産実践の場でリラクゼーションテクニックを活かす。自然治癒力高め、心身の緊張をほぐすホリスティックケアとして、周産期に用いられる安楽法やリラクゼーション法（アロマ、タッチケア等）について学び、周産期の疼痛、不快緩和方法を習得する。東洋医学を用いた補完代替医療に関する母子への効果についても学習する。実技ではリラクゼーションを体験し、理解を深める。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>ホリスティックケアの概念を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期の癒しの効果について理解できる。</li> <li>必要なリラクゼーションテクニックを身につける。</li> <li>助産援助に効果的な方法を実践できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回：オリエンテーション、ホリスティックケア・代替補完療法〈授業形式：講義〉（長嶺）  第2～3回：代替補完療法の総論〈妊産婦の栄養〉〈授業形式：講義〉（諸喜田）  第4～5回：代替補完療法の実際〈指圧、鍼灸〉〈授業形式：講義・演習〉（諸喜田）  第6～7回：ベビーマッサージ理論と演習〈授業形式：講義・演習〉（定岡）  第8～9回：運動療法〈マタニティヨガの理論と実践〉〈授業形式：講義・演習〉（又吉）  第10回：音楽療法〈声楽家による呼吸を意識する声ヨーガ〉（阿部）  第11～12回：代替補完療法〈アロマセラピー ハーブ理論・実践〉〈授業形式：講義・演習〉（長嶺）  第13回：分娩期のリラクゼーションケア〈産痛緩和、分娩促進のケア〉〈授業形式：演習〉  第14回：産褥期のリラクゼーションケア〈睡眠・休息を促すケア、バースレビュー、母乳分泌促進のケア〉  *第13～14回演習は、ハンドマッサージ、背部、温罨法、足浴等のケアを実践する。  第15回：育児支援・スクラップブックによるアルバム、カード作り/まとめ〈授業形式：演習〉（長嶺）</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>助産学講座3, 母子の健康科学, 医学書院  辻内敬子, 出産準備教室東洋医学を取り入れた妊婦さんの体づくりとセルフケア, 医歯薬出版, 2012  新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス、インターメディカ  無痛分娩を含めた産通緩和ケア, ペリネイタルケア, メディカ出版, 2016vol. 35</p>						
5. 準備学習						
助産学講座3, 母子の健康科学, 医学書院に関連する内容を理解し参加すること						
6. 成績評価の方法						
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参加態度 10 点</li> <li>演習課題 40 点</li> <li>レポート各 50 点：母子癒し援助論で学んだリラクゼーション技術を助産ケアでどのように活用するか 2000 字程度にまとめる。</li> </ul>						
合計		100 点満点				

7. 履修の条件 :

\*助産ケアとしてスキルを習得するためには普段からケアを実践していく必要があります。よりよいケアが提供できるように日常生活の中に取り入れてください。

\*シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。



授業コード	科目名	やんばるの母子保健			担当教員	小西清美、大浦早智、 田場真由美、比嘉憲枝、 小柳弘恵
助 116					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	新研 419	月曜・火曜：2 限	
1. 授業の概要						
<p>最近の母子保健行政である成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策を理解するとともにその意義を学習する。現状を踏まえて、沖縄北部地域「やんばる」の母子を取り巻く地域社会の変化と特徴、母子とその家族が持つ母子保健上の諸問題を理解し、地域住民の多様なニーズに応じた母子保健活動を展開するための基礎的な介入方法を学習する。また、離島、僻地地域社会の概念やコミュニティについて理解し、保健・福祉の現状理解を深めて、すべての子どもが健やかに成長することのできる地域社会をめざす母子保健の意義を学習する。関連する法規、政策を学ぶと共に、他職種との連携、協働して母子保健を推進していくことの重要性とその方策について学習する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域母子保健の概念、最近の母子保健行政（成育基本法）の動向を理解する。</li> <li>2. やんばるの母子を取り巻く地域社会の特徴を理解する。</li> <li>3. 地域母子保健の概念、僻地、離島地域における母子保健活動の現状を理解する。</li> <li>4. 地域母子保健活動の展開方法を理解し、家庭訪問に必要な技術を習得できる。</li> <li>5. 乳幼児健康診査とその周辺、障害の発見とその実際について修得できる。</li> <li>6. 沖縄やんばるの、離島・僻地の医療および救急医療と母子保健の課題と展望について説明できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第1回 ガイダンス：地域母子保健の概念</p> <p>第2回 わが国の母子保健の現状と動向、母子保健指標</p> <p>第3回 わが国のおもな母子保健制度・母子保健施策、最近の母子保健行政（成育基本法等）</p> <p>第4回 地域母子保健の現状と課題演習</p> <p>人口動態統計、母子保健統計、周産期医療体制、医療圏における連携、地域母子保健計画の展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部地域の子育て環境の実際（各自調査）、</li> <li>・北部地域の救急医療と母子保健（各自調査）</li> <li>・北部地域の障がい児等について母子に対する社会保障、福祉と医療保険制度（各自調査）</li> <li>・「名護」「大宜味村」「伊江村」「伊是名村」「伊平屋村」の母子保健活動の事前調査</li> </ul> <p>※授業内容や資料からの地域特性、母子保健事業の理解・分析、調査や課題演習のための資料の作成</p> </div> <p>第5-6回 健やか親子（第二次）、 子育世代包括支援センター、産後ケアサービス（小柳）</p> <p>第7-9回 家庭訪問指導実際、演習（大浦）</p> <p>家庭訪問ロールプレイング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 計画立案</li> <li>2) 計画発表</li> <li>3) ロールプレイングの実践</li> </ol>						

第 10-11 回	離島地域における母子保健活動（比嘉）
第 12 回	僻地地域における母子保健活動（国頭村、東村、大宜味村などの比較または、 1ヶ所に焦点をあてて）僻地の医療および救急医療と母子保健の課題（田場）
第 13 回	乳幼児健康診査とその周辺、障害の発見
第 14-15 回	事前課題・演習の発表・評価、地域母子保健のまとめ
4.	テキスト・参考文献
	武谷雄二、前原澄子編、助産学講座9地域母子保健第4版、医学書院 この他の参考図書は、随時紹介する。
5.	準備学習
	事前学習を行い、授業に臨むこと。
6.	成績評価の方法
	・筆記試験（60%）・課題演習等への取り組み状況（40%）                      合計 100 点
7.	履修の条件   ：特になし
8.	その他       ：母子ケアリング実習（僻地・離島）に継続する科目である。

授業コード	科目名	助産学実習 I (妊娠期・継続ケース)			担当教員	大浦早智、長嶺絵里子、 小西清美
助 117					E-mail	s.oura@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	通年	6	看研 18	月：5 限、金：5 限	
1. 授業の概要						
<p>周産期にある母子や家族を対象に、助産過程を通して助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な基本的理論・知識、技術、態度を修得する。妊娠期においては、妊娠各期に必要な診断技術を修得し、妊婦およびその家族に必要な援助や保健指導を展開するための基礎的能力を培う。継続ケースにおいては、妊娠後期から産褥 1 カ月までの母児を受け持ち、継続的に母児の健康診査・保健指導・援助を行う。対象をとりまく環境およびその家族について理解を深め、周産期における助産師の役割について学ぶ。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産の対象である妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、子ども、その家族を身体的・心理的・社会的に統合された全体的な存在として述べることができる。</li> <li>2. 対象となる妊産婦を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児、母子訪問時のケアを安全性・快適性に配慮して実践できる。</li> <li>3. 対象となる妊産婦および胎児・新生児の健康状態を査定し、ケアの計画・実施・評価ができる。</li> <li>4. 助産過程の展開により、分娩経過の診断と予測を行うことができる。</li> <li>5. 分娩介助技術、産痛軽減のための技法を安全性・快適性に配慮して実践できる。</li> <li>6. 母子や家族に対する援助的人間関係を形成できる。</li> <li>7. 妊娠期から育児期における親性の発達過程を理解する。</li> <li>8. 助産実践時に専門職として必要な倫理に配慮して行動できる。</li> <li>9. 助産師・医師その他の関連職種との連携と協働を通して、医療チームの一員として行動できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期（外来実習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産科外来にて、妊娠期ケースとして、妊娠初期 1 名、妊娠中期 1 名を受け持ち、妊婦健診に同行する。（1 日実習：前日または当日の情報収集をもとに関わる） 継続ケースとして、妊娠後期から産後 1 か月までの母児を 1 組受け持つ。</li> <li>2) 臨床指導者に保健指導計画を報告し、ケースの面会及び指導を行う。</li> <li>3) 指導は、教員または臨床指導者立会いのもと実施する。健康診査および保健指導を展開する。</li> <li>4) 妊婦・胎児の健康状態については事前に情報収集する。</li> <li>5) 保健指導案及び健康診査については、教員や実習指導者から事前・事後ともに速やかに助言・評価を受ける。提出時期や提出方法については担当教員および実習指導者と連絡・調整をする。</li> <li>6) 妊娠後期では、産科外来にて診察の一部実施、介助、保健指導を行う。健診終了後は記録のまとめを行う。</li> </ol> </li> <li>2. 分娩期/継続ケース実習：分娩経過の診断を行い、対象者に必要なケアと分娩介助の実施を行う。 <p>※ 受持ち事例が帝王切開になった場合は帝王切開前後のケアを指導者と共に行う。産科手術の介補、新生児気道確保、異常発生時の判断や対応について学習しておく。</p> </li> </ol>						

<p>産褥期/継続ケース実習：産褥期の母児の健康診査とケアを実施し、保健指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子訪問時、母児の健康診査を行い、母子とその家族の発達課題にあわせた援助を行う。</li> <li>2) 産後2週間健診時、生後1カ月健診時の計画を立案し、施設の指導者の指導をうける。健康診査及び保健指導を実施する。</li> <li>3) 継続ケースとの人間関係を通して、助産師の役割・責任・可能性について考察を深める。</li> </ol> <p>3. 受け持ち選定時の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 継続ケースは、妊娠後期から産褥1カ月まで継続して受け持つことが可能な妊婦を継続事例として1名決定する（原則として正期産で正常な分娩経過が見込まれる初産婦を対象とする）。</li> <li>2) 選定に際しては医療施設の指導者の指示に従う。</li> <li>3) 感染症（HBV, HCV, HIV, MRSA）を有する対象者は原則として対象から除外する。 *ATL, GBS, クラミジアは受け持つ場合がある。</li> </ol> <p>4. 実習内容/継続ケース実習</p> <p>妊娠期：受持ち決定後の妊婦健診と保健指導 分娩期：分娩第1期（入院時）から分娩第4期まで 産褥・新生児期：入院期間中の診断とケア 産後2週間健診、1カ月健診（外来）家庭訪問（状況に応じ、電話訪問）等</p> <p>5. その他</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子健康手帳や出生証明書の記録はしない。ただし、記載内容は確認をする。</li> <li>2) 妊婦保健指導および分娩介助の自己評価はできる限り当日行い、指導者評価を受ける。</li> </ol>
<p>4. テキスト・参考文献</p> <p>助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論, 医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学I, 医学書院 助産学講座7 助産診断・技術学II (2) 分娩・産褥期, 医学書院 THE 分娩, メディカ出版 病気が見える10「産科」, 医学書院 プリンシプル産婦人科学2産科編, メディカルビュー社 産婦人科診療ガイドライン2020 産科編, 日本産婦人科学会 *この他の参考図書は、随時紹介する。</p>
<p>5. 準備学習</p> <p>授業の計画と内容に沿って、予習をしておくこと。</p>
<p>6. 成績評価の方法</p> <p>記録物（内容・提出期限） ケースレポート（50%） 事例評価（25%） 活動状況（実習への参画度、実習態度）（15%） 口頭試問（10%） 合計 100点</p>
<p>7. 履修の条件</p> <p>「母子の栄養・薬理学」「周産期医学」「助産過程の展開」「妊娠期の助産診断・技術学」「分娩期の助産診断・技術学」「分娩期助産演習」を履修していること。 「産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学」の一部を受講していること。</p>
<p>8. その他</p> <p>進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい</p>

授業コード	科目名	助産学実習Ⅱ（分娩・産褥・新生児期）			担当 教員	長嶺絵里子、大浦早智 小西清美
助 118					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
6	1	通年	6	新研 417	月・水：3	
1. 授業の概要						
<p>分娩期実習では、沖縄県内の産科施設において正常分娩を中心としたローリスク産婦の出産に立会う。分娩期においては、分娩第1期～4期まで助産過程の展開をもとに系統的に助産ケアを実践し、1例の継続事例を含む10例の分娩介助を行う。また、産婦との分娩の想起（バースレビュー）を通し、双方にとっての振り返りの意義を学ぶ。さらに、異常分娩時における医師との連携・協働および産婦と家族への精神的支援等、助産師の役割やケアの実際を学ぶ。産褥・新生児期においては、分娩を介助した母子の入院中から1ヶ月健診まで引き続き継続して受け持ち、ケースの産褥・新生児期の経過に合わせて必要な保健指導ならびに助産ケアを実践する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産診断技術ならびに助産過程をもとに、分娩徴候および分娩開始・分娩進行を判断できる。</li> <li>2. 分娩経過をアセスメントし、正常分娩の介助ができる。</li> <li>3. 安全かつ産婦の満足度を高める助産ケアが実施できる。</li> <li>4. 助産実践におけるPDCAサイクルを意識して自己の関わりを振り返ることができる。</li> <li>5. 分娩期における異常時の医師との連携の実際を見学し、助産師の役割を理解する。</li> <li>6. 分娩経過ならびに産後の経過をふまえ、適切な助産過程をもとに保健指導を含めた産褥・新生児期の助産ケアが実施できる。</li> <li>7. ケースの個別性をふまえた母乳育児支援に必要な知識・技術を修得する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として、40歳以下で合併症のない正常な妊娠経過の産婦を、分娩第1期から受け持ち分娩介助を行う。分娩直後～2時間の産婦・新生児のケアまで実施して1例とする。ただし、分娩第1期から担当していた産婦が、結果的に吸引または鉗子分娩になった場合に、1例の介助とするか否かは、その都度状況に応じて判断することとする。</li> <li>2. 担当した産婦の分娩経過において、助産診断をもとに分娩経過を予測し、母児とその家族の心理・社会的側面に関するアセスメントを加え、正常な分娩経過のために必要な助産ケアを実践する。</li> <li>3. 産婦のバースプランを考慮し、対象にとって“安全で満足のいく出産“を支援する態度を養う。また、介助した産婦の入院中に分娩の想起（バースレビュー）を実施し、肯定的出産体験と児への愛着形成を支援するとともに、“安全で満足のいく妊娠・出産“について考察する。</li> <li>4. 分娩の1例1例を振り返り、自己の関わりや助産実践について内省し知識・技術を積み重ね、助産観を深める機会とする。</li> <li>5. 分娩の間接介助の実施、帝王切開や急迫分娩、産科出血時の対応を見学し、医師との連携および周産期における助産師の役割について理解を深める。</li> <li>6. 以下の点を主軸に分娩期から継続して産褥・新生児期の母子への支援を行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①母親の進行性変化、退行性変化の促進。</li> </ol> </li> </ol>						

<p>②新生児の胎外生活適応ならびに生理的変化の正常化。</p> <p>③母乳育児の確立ならびに母子の愛着形成、親役割獲得への支援。</p> <p>④産後の育児不安、マタニティブルーの軽減</p> <p>7. 母子の個性やその時々々の状況に応じた母乳育児支援の実際を見学および一部実施する。</p>
<p>4. テキスト・参考文献</p>
<p>助産学講座5・助産学講座7 医学書院</p> <p>分娩介助学 医学書院</p> <p>臨床助産師必携 医学書院</p> <p>病気が見える10「産科」 医学書院</p> <p>胎児心拍数モニタリング講座</p> <p>プリンシプル産婦人科学 1産科編 メディカルビュー社</p> <p>産婦人科診療ガイドライン</p>
<p>5. 準備学習</p>
<p>特になし</p>
<p>6. 成績評価の方法</p>
<p>記録物（内容・提出期限）ケースレポート（50%）</p> <p>事例評価（25%） 活動状況（実習への参画度、実習態度）（15%）</p> <p>口頭試問（10%） 合計 100点</p>
<p>7. 履修の条件</p>
<p>「助産診断・技術学（分娩期）・（産褥・新生児期）・分娩期の助産演習を履修していること。</p>
<p>8. その他</p>
<p>*シラバスは講義の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。</p>

授業コード	科目名	助産学実習Ⅲ (NICU)			担当教員	長嶺絵里子、小西清美 大浦早智
助 119					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	後期	6	新研 417	月 5 限、水 5 限	
1. 授業の概要						
<p>ハイリスク新生児とその家族を対象に、助産実践に必要な理論・知識、技術、態度を学習する。また、地域社会や医療機関において、助産師と保健・医療・福祉との連携・協働の実際を通して、ハイリスク新生児とその家族を支援する専門職としてのあり方を考察する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイリスク児の身体的・心理社会的な成長・発達の特徴や病態を理解する。</li> <li>2. 母親の妊娠経過や分娩経過と出生時の状態、および出生後の経過と治療を関連付けて理解する。</li> <li>3. ハイリスク児の特性や個別性を考慮したケアを立案し、指導のもと一部実施し、その結果を評価できる。</li> <li>4. NICU の物的・人的環境について理解し、NICU におけるケアの特殊性について理解する。</li> <li>5. ハイリスク児と母親への母乳育児支援の実際を学び、その意義を理解する。</li> <li>6. ハイリスク児をもつ親や家族を全人的に捉え、施設で行われているケアの実際を通して、family centered care (FCC) の概念を理解する。</li> <li>7. ハイリスク児とその家族を支援するために、保健・医療・福祉の専門職との協働の重要性を認識し看護職（助産師）の役割について考察する。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>4 日間の実習期間を通して、入院中のハイリスク児とその家族を受け持ち、実習指導者の指導のもと助産過程を実践する。対象は、重篤な合併症がなく急性期を脱して全身状態の比較的安定した児とする。具体的なケア内容は、バイタルサインの測定、全身観察、環境整備、清潔ケア、授乳、母乳育児支援、アタッチメント形成に向けての支援などで、母子の状況に応じ、指導者の指導のもと可能な範囲で実施または見学する。</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>NICU マニュアル 第5版 新生児医療連絡会 金原出版 ネオネイタルケア（メディカ出版）の特集や増刊号 等</p>						
5. 準備学習						
授業の計画と内容に沿って、上記文献を活用し予習をしておくこと。						
6. 成績評価の方法						
<p>記録物（内容・提出期限）ケースレポート（60%） 活動状況（実習への参画度、実習態度）（20%） 事例評価（20%） 合計 100点</p>						
7. 履修の条件						
「新生児・乳児学」「助産過程の展開」「産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学」を履修していること。						
8. その他 : 特になし						

授業コード	科目名	助産管理学実習			担当教員	小西清美、長嶺絵里子、 大浦早智
助 120					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	新研 419	月 4 限、金 4 限	
1. 授業の概要						
本実習では、病院における助産業務の管理、助産院の運営、及び開業助産師の活動の実際を見学及び参加することを通して、助産活動のあり方、技術、態度を修得する。						
2. 到達目標						
1. 病院における助産業務管理の実際が理解できる。 2. 助産所の運営と管理、他職種と連携の実際を学び、助産所における助産管理の特徴を理解する。 3. 地域における助産師活動の実際を理解する。 4. 地域の周産期管理システムと連携方法を説明できる。 5. リスクマネジメント、危機管理のあり方を考察できる。 6. 開業助産師の高い理念や志を理解し、助産所開設に向けてのプロセスの演習を通して、自律した助産師の役割を考察できる。						
3. 授業計画と内容						
<b>【実習の進め方・方法】</b> ① 病院（2日） ・産科病棟の管理・運営、助産業務管理、リスクマネジメント、危機管理などの実際を後追い実習し、学ぶ。 ② 助産所（3日） ・助産所における助産管理・運営・経営の実際について理解し、実際の活動を見学する。 ・開業助産師の地域での活動を見学（訪問業務は、新生児・妊婦・褥婦、集団活動は、育児サークル・各種学級など）する。乳房管理など、可能なケアを実施する。 ・助産所開設に向けてのプロセス（関係する法律、届け出方法、施設の理念・方針、組織、業務体制、安全・災害対策、経費バランスシート）を学ぶ。 ※各実習施設に出向き、目標達成のために自ら進んで実習に取り組む。						
4. テキスト・参考文献						
助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 この他の参考図書は、随時紹介する。						
5. 準備学習						
・コースガイダンス時に資料を配布するので、確認をしておくこと。 ・各実習場所における自己の到達目標は、事前のオリエンテーション時に担当教員の助言のもと準備をする。 ・授業の計画と内容に沿って、予習をしておくこと。						
6. 成績評価の方法						
レポート課題(50%) 実習記録、実習評価表の到達度、実習への取り組み・活動状況(50%)						



合計 100%	
7. 履修の条件	
	「助産学概論」「助産ケアと倫理」「沖縄のケアリング文化と女性」「助産管理学」を履修していること。
8. その他	： 特になし

授業コード	科目名	母子ケアリング実習（僻地・離島）			担当教員	大浦早智、長嶺絵里子、 小西清美
助 121					E-mail	s.oura@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	後期	6	看研 18	月：5 限、金：5 限	
1. 授業の概要						
<p>実習を通して、沖縄の歴史や文化を継承しながら生活する人、地域の絆やケアリング文化を理解する。沖縄の僻地・離島の地域特性と人々のヘルスニーズを踏まえ、妊産褥婦や女性とその家族の健康支援体制、関係機関との連携・協働体制、母子保健・福祉・医療・看護活動を学習する。また、子育て家庭を支える福祉に関する施策や社会資源を理解するとともに、地域の保育や子育て支援に関する社会資源の整備状況等を理解する。助産師の役割は何かを学び、今後の助産のあり方や助産師活動の実際の理解を深める。北部の助産院、市町村における母子支援事業、産後ケア事業の展開を理解する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>僻地・離島の地理的、社会的環境について理解できる。</li> <li>僻地・離島で生活する人々の健康ニーズ、母子保健の現状課題を述べることができる。</li> <li>地域診断を行い実習市町村の地域特性を踏まえて、切れ目ない母子支援を理解することができる。</li> <li>地域の特性を踏まえて、健康支援に向けた母子保健活動、母子保健事業について理解できる。</li> <li>僻地・離島における関連諸機関との連携を知り、看護専門職が果たす役割について理解できる</li> <li>地域社会で生活する母子を対象とした様々な助産活動を学習し、対象のニーズに即した助産師の役割・業務を説明できる。</li> <li>僻地・離島において、母子支援事業、産後ケア事業の展開を理解する。</li> <li>福祉の現状と子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について述べるができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>実習展開</p> <p>1 日目：北部地区：僻地医療の母子保健の実際（北部市町村 乳児健診見学と一部実施）（半日）</p> <p>2 日目：北部地区：僻地医療の母子保健活動、乳児相談の見学等（半日）</p> <p>3 日目：北部地区助産院実習（やんばる希望ヶ丘助産院） 実習オリエンテーション、助産院の特徴、受け持ち対象者選定（2 コマ）</p> <p>4 日目：北部における妊産婦支援体制、島嶼僻地の妊産婦支援の現状（学生は、2 名で 1 日実習を行う） 妊婦健診を利用する妊産婦や産後健診、産前産後サポート事業（アウトリーチ、デイサービス、宿泊型）を利用する産後 4 か月ごろまでの母親、乳児への支援を行う。</p> <p>5～6 日目：伊平屋村：生活する人々の健康ニーズ理解、母子保健活動の実際、診療所見学（学生 6 名）（泊） 島嶼における保健師、助産師の役割、多職種連携について（事前課題レポート提出） 実習のまとめ/発表（学内）</p> <p>*生活する人々の健康ニーズ理解、母子保健活動の実際、島嶼における保健師、助産師の役割について *保健センターの実習は土曜日に行うこともある。その際には、自己の健康状態に十分配慮し、休憩時間や代休日を確保する。</p>						
4. テキスト・参考文献						
助産学講座 1 基礎助産学 助産学概論, 我部山キヨ子・武谷雄二, 医学書院						

助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健, 我部山キヨ子, 医学書院	
*この他の参考図書は、随時紹介する。	
5. 準備学習	
「やんばる母子保健」講義で事前に地区診査（僻地1ヵ所、離島(伊平屋村)の課題を提出し、実習に参加すること（地域の特徴、母子保健に関連した取り組み、分娩施設現状、緊急時の支援体制、連携等）。	
6. 成績評価の方法	
レポート（60%）、実習記録、実習評価表の到達度、実習への取り組み・活動状況(40%)	合計 100%
7. 履修の条件	
「沖縄のケアリング文化と女性」「やんばるの母子保健」を履修していること。	
8. その他	
なし	